



極めて良い日持ち性を持つ画期的なスプレーカーネーション新品種「カーネ愛農1号」を開発

開発の背景・ニーズ

近年、切花価格が低迷しており、その原因として輸入カーネーションの割合が国内流通量の半数を超えていることが挙げられます。また、消費者は切り花の日持ち性の良さを求めていることから、国産花きの強みである 鮮度や日持ち性の良さ等を活かした品種の開発を目指しました。

成果の内容

愛知県農業総合試験場は、国立研究開発法人農研機構花き研究所と共同で、愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション育種クラブの協力を得て、日持ち性が極めて良い「カーネ愛農1号」を開発しました。平成27年1月に育成を完了し、6月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、9月29日に公表されました。

新品種の特徴

- 日持ち性が極めて良く、一般的な品種の3倍程度の期間観賞できます。
- 需要の高い“ピンク色”の花色で、ブライダルを始め幅広く利用できます。
- 早生で一番花から茎の伸長性と強度が高く、愛知県では10月から出荷が可能です。
- 年内収量が多いため多収性であり、秀品率も高く、生産者の経営安定に繋がります。



切り花

カーネ愛農1号

従来品種



日持ち試験（9日目）

愛知県農業への貢献

平成27年秋から「カーネ愛農1号」の出荷を開始しました。今後、県内産地での規模拡大を図るとともに、愛知県外でも生産の拡大が期待できます。本品種を始めとした高品質な国内カーネーション品種が市場へ周年出荷されることを通じて、輸入品からのシェア奪還を目指します。

【この研究は「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施した成果です】